

北京師範大学 講演

タイトル:総合活動型日本語教育とは何かーその学習・教師・教室についてー

細川 英雄

(早稲田大学大学院日本語教育研究科)

この講演では、私が 1998 年から開始した「総合活動型日本語教育」(以下、「総合」)について、その学習および教師と教室についてお話しします。

「総合」は、それまでの教科書を教えるという教室活動から脱皮し、学習者自身の「考えていること」を素材に、教室参加者で話し合いながら、教室そのものを作っていこうという活動です。

この活動を行うことによって、教師は、それまでの自らの教育観を大きく修正することになりますし、学習者もまた自分の学習観の見直しを迫られます。「総合」の活動の歴史は、そうした教師と学習者双方の学習／教育観の捉えなおしの歴史でもあります。

講演では、「総合」の歴史を振り返りつつ、教師と学習者の間にどのような捉え直しがあったのか、それは、これからの日本語教育を展望する上で、どのような意味があるのか、といった問題について考えてみたいと思います。この「総合」の課題を考えることが、中国における日本語教育の未来を展望することでもあると考えるからです。皆さんの積極的な参加を期待します。

なお、事前に下記のホームページを見ておいていただくと、話の論点が明確になり、議論が活性化すると思います。

■早稲田大学大学院日本語教育研究科言語文化教育研究室ホームページ

<http://www.gsjal.jp/hosokawa/>

総合活動型日本語教育と は何か

ーその学習・教師・教室について

細川英雄(早稲田大学大学院日本語教育研究科)

<http://www.gsjal.jp/hosokawa/>

2009年3月5日 北京師範大学

総合活動型日本語教育とは何か —その学習・教師・教室について

- 1 いつ始まったか
 - 2 なぜ始まったか
 - 3 どんな活動なのか
 - 4 何が変わるのか
 - 5 どうすれば変わるのか
-

1 いつ始まったか

□ 1 60~70年代 「何を？」

教育内容重視、教師中心

□ 2 80年代 「どのように？」

教育方法重視、学習者中心、コミュニカティブ・アプローチ→プロジェクト・ワーク

□ 3 90年代 「なぜ？」

教育関係重視、学習者主体→新しい活動型
日本語教育

2 なぜ始まったか

言語コミュニケーション能力

```
graph TD; A[言語コミュニケーション能力] --- B[言語能力 (語<文) 語彙・文型]; A --- C[場面認識能力 (文章・談話) ロールプレイ]; A --- D[社会文化能力 (文化知識) ステレオタイプ];
```

言語能力
(語<文)
語彙・文型

場面認識能力
(文章・談話)
ロールプレイ

社会文化能力
(文化知識)
ステレオタイプ

2 なぜ始まったか

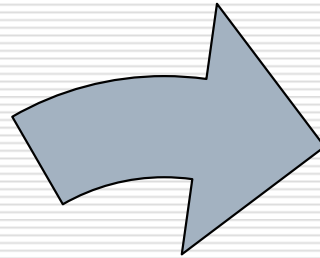
- 部分から全体へ（語＞文＞文章・談話）
 - 他者とのインターアクション・話者の内省は？
 - 「異文化」への順応、適応強制のリスク
-

3 どんな活動なのか

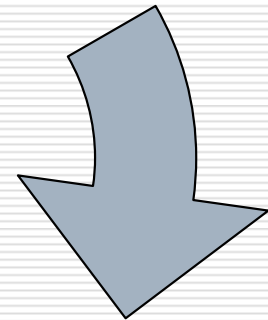
- 全体から部分へ(テーマ／主題／動機＞文章・談話＞文)
 - ことばと文化の統合(「文化」の境界を個人化する)。
 - 自己の内省と他者とのインターアクションの活性化
 - 活動の循環を螺旋状(スパイラル)に描く。
-

3 どんな活動なのか

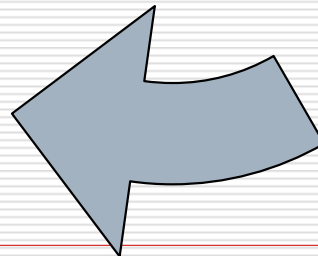
情報 INPUT



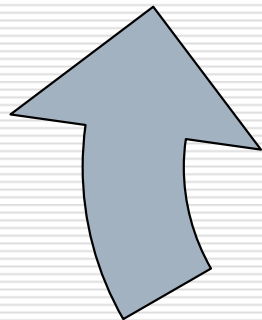
認識・判断
REFLECTION



他者からの反応
NOTICING



他者への表現化
OUTPUT



3 どんな活動なのか

□ 行為者acteurとしての学習者の活動

- ・自分の考えを表現する。
- ・他者の考えを聞く。
- ・自分の考えを更新する。
- ・複数の他者と自分、社会との関係について考える。

□ 活動は、他者との交流によって活性化する。

3 どんな活動なのか

「総合活動型日本語教育」の実際

考えるための日本語

問題を発見・解決する力とは何か

2003年3月製作

早稲田大学大学院日本語教育研究科
言語文化教育研究室

総合活動型学習ビデオの紹介

□ 教室活動の手順

- 1 興味関心のあるテーマを選ぶ
- 2 対話活動
- 3 話し合い（グループ活動）
- 4 結論を出す（グループ活動）
- 5 相互自己評価

□ [Video 1](#):全体説明:このクラスでは何をするのか?

□ [Video 2](#):グループ活動例：ドイツ人学生の場合

□ [Video 3](#):学生による評価

4 何が変わるのか

□ 自己と他者の関係について考える

□ 社会の多様性・複雑性を考える

⇒ 行為者のアイデンティティ構築(再・共)へ

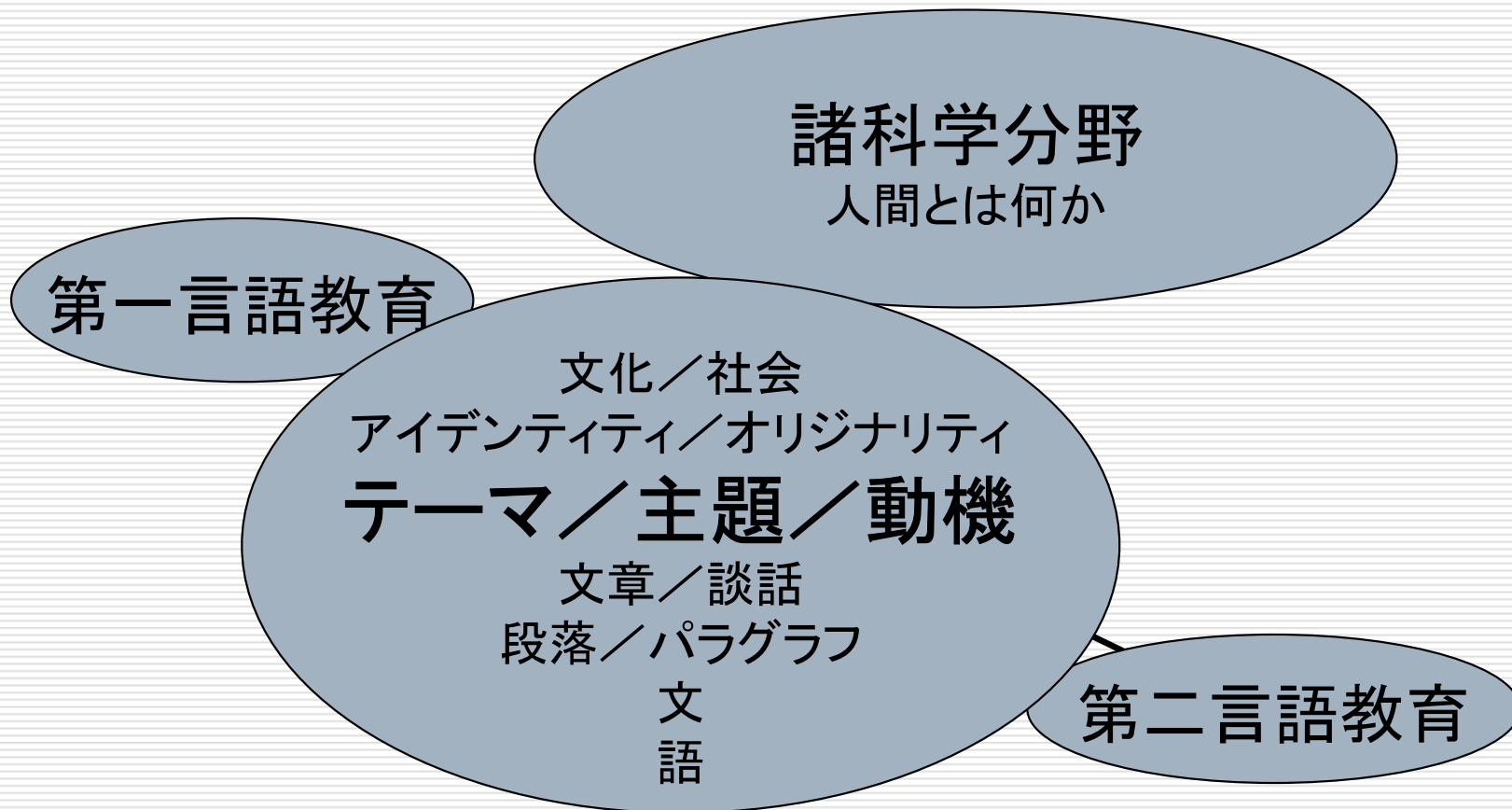
□ 教室は、アイデンティティ調整の場、そのような環境をどうつくるか

□ 言語教育が育成する個人とは？

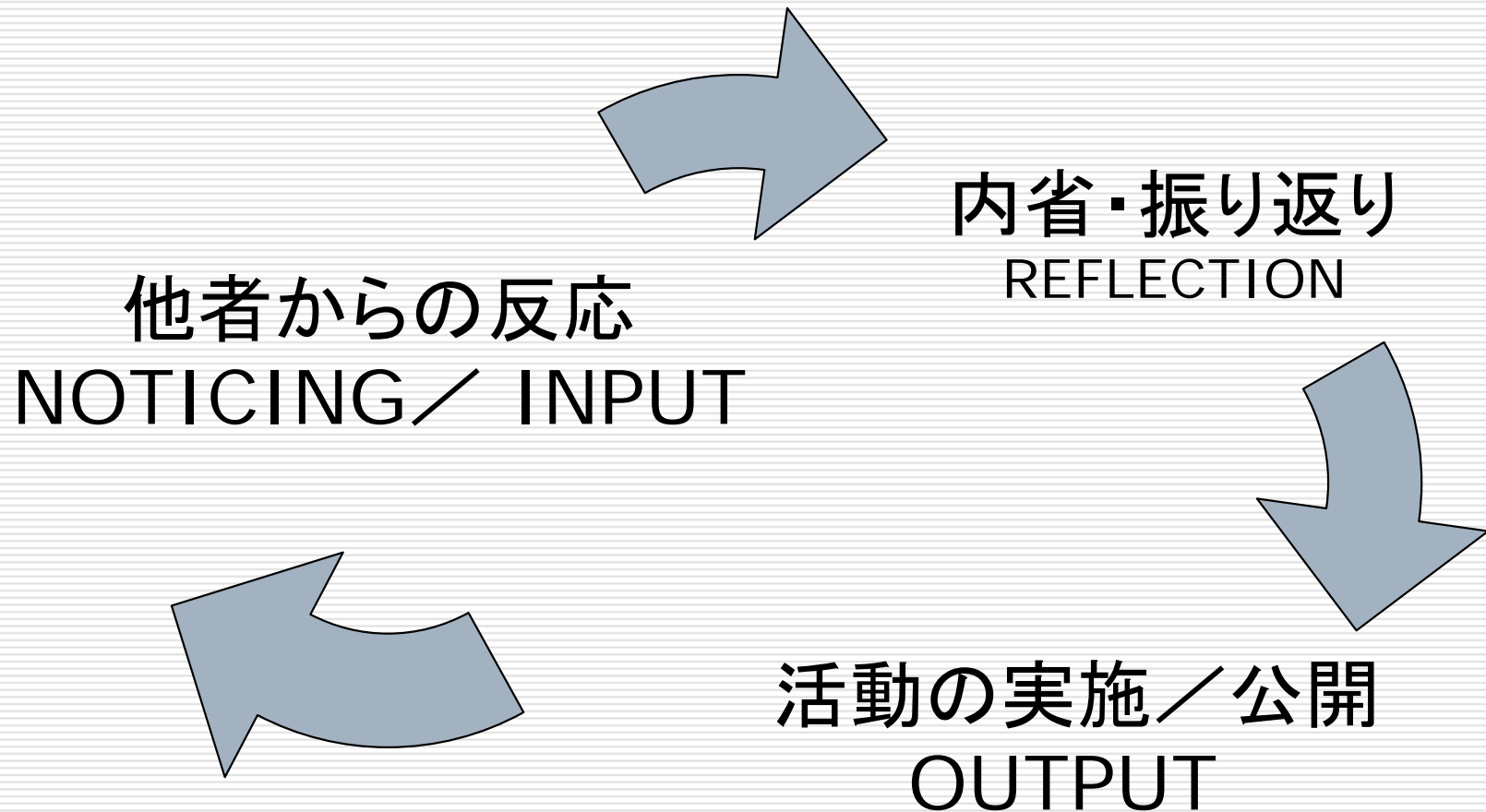
4 何が変わるのか

- 教室は一つの社会
 - = 行為者 *acteur* としての日本語学習
 - 社会における言語使用とは何か
 - = 自ら選び取る言語とその活動をめざす
 - 自らのテーマの構築とその展望への期待
 - = 準備・応用を目的としない領域へ
 - = 母語・第2言語を超えた方法論へ
-

4 何が変わるのか



5 どうすれば変わるのか



5 どうすれば変わるのか

- 活動の実施
 - 活動の公開
 - 他者からのコメント
 - 内省・振り返り
 - 活動の設計
 - 活動の実施
 - 教育と研究を統合する「実践研究」へ
-

総合活動型日本語教育と は何か

ーその学習・教師・教室について

ありがとうございました。謝謝

<http://www.gsjal.jp/hosokawa/index.html>